

令和7年度 第2回 米子市公民館運営審議会 議事録

日 時： 令和8年2月25日（水） 午後3時から

場 所： 米子市明道公民館 2階 第1研修室

出席者：

公民館運営審議会委員： 奥田会長、河本副会長、安田委員、足立委員、鐘築委員、戸田委員、山下委員、湯原委員

事務局： 地域振興課 田中課長、景山課長補佐、鶴籠担当課長補佐、生涯学習課 松永担当課長補佐

1. 報告事項（資料1から8）

令和7年度 公民館事業（広報等）： SNS（主にInstagram）活用館が5館から13館へ増加。特に福生東公民館では高校生による発信支援などが行なわれている。

学習講座事業の実績と満足度：

大学講座： 健康や現地学習が人気。受講者は70～80代中心でリピーターが多い。満足度は98.7%と高く、スマホや防犯へのニーズが高い。

学習講座： ものづくり等が好評で、初参加とリピーターが半々。満足度は99.2%。

令和8年度 学習講座の条件緩和： 従来必須としていた「家庭教育・人権」に加え、「デジタル化」「多世代交流」「学校等との連携」「防災」「環境問題」を合わせた7テーマから2つ以上を選択する方式へ変更。現役世代の参加促進を図る。

ひと・まち事業・こども関連事業： 本年度より企画・運営に関わる「地域住民（役員・ボランティア等）」の数を集計。ひと・まち事業では延べ2,848名が関与した。

明道公民館整備基本構想： 施設の老朽化に伴い、南保育園跡地へ移転（令和12年度供用開始予定）。「集う・学ぶ・育む・守る」の4つの拠点像を策定した。

その他： 令和9年10月、「中国四国地区公民館研究集会」が米子市で開催決定。

2. 主な質疑応答・意見交換

委員： 中高生のボランティア関与度（企画か手伝いか）を把握すべき。また、平日昼間開催では現役世代（40～50代）が参加できないため、土日開催や全館でのSNS（公式LINE等）活用を進めるべき。

事務局： SNS発信支援の継続と、講座要件緩和による多世代交流の促進したい。

委員： 夜間（22時頃）も図書機能等が使い、親子が滞在できる環境の整備は考えていないか

事務局： 今後の拠点としての検討課題である。

委員： 明道公民館の構造は災害時避難やバリアフリーの観点から「平屋」での設計が良いと思う。

事務局：ユニバーサルデザインの観点から視野に入れていきたい。

委員：職員の連絡ツールとしては、個人スマホでの業務連絡は安全面・プライバシー面で懸念があるため公用端末を支給すべき。

事務局：公用携帯の支給は現状難しいが、LINEの匿名機能（オープンチャット等）の活用やリテラシー研修等で対策していく。

委員：学校と地域の連携としては、中学生は地域に出たがっているが、教員の働き方改革や部活動の地域移行によりボランティア要請に応えにくい現状がある。公民館の負担を考慮し、講座を複数館で連携・共同開催して負担を分散してはどうか。

3. 審議事項（人事案件のため非公開・資料9）